

図1 Ob含量と乾物消化率

表1 放牧草の草高および割り当て草量

調査時期	平成13年		平成14年	
	草高	割り当て草量	草高	割り当て草量
	cm	DMkg/頭	cm	DMkg/頭
6月	36	1492	24	446
8月	21	701	15	228
10月	14	410	11	148

表2 調査時放牧草<sup>1)</sup>の成分組成および乾物消化率(2カ年平均)

調査時期	乾物率 %	CP	ADF	NDF	ADL	OCW	Oa	Ob	OCC	EE	C.Ash	DMD <sup>2)</sup> %	DE <sup>3)</sup> Mcal/kg
6月	22.9	18.6	24.7	48.0	1.8	48.6	11.7	36.9	43.0	3.8	8.4	64.2	2.99
8月	19.2	21.7	24.6	43.8	1.9	47.7	10.9	36.8	42.7	5.0	9.7	64.3	3.00
10月	24.5	25.4	19.5	40.0	2.3	43.2	6.2	37.1	47.6	5.0	9.3	64.1	2.99

注 1)手摘み法による調査本期中5日間の平均値。2)乾物消化率。DMD(%) = 92.96 - 0.78\*Ob により推定、  
3)可消化エネルギー、DE = 4.482 - 0.0404\*Ob により推定

表3 乾物採食量および栄養摂取量

調査時期	平成13年			平成14年		
	乾物採食量	CP摂取量	DE 摂取量	乾物採食量	CP摂取量	DE 摂取量
	体重比%	g/日	Mcal/日	体重比%	g/日	Mcal/日
6月	2.39	2521(316)	40.4 (212)	2.63	2873(367)	46.4 (249)
8月	2.00	2571(329)	33.2 (179)	2.28	2765(350)	40.6 (216)
10月	2.59	3489(443)	43.2 (230)	2.02	3280(401)	37.0 (190)

( )内は成馬の維持要求量に対する充足率

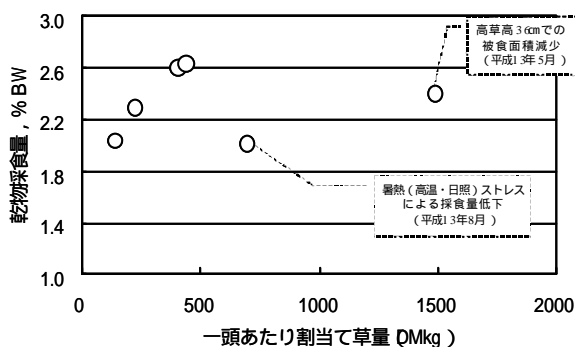


図2 割り当て草量と乾物採食量

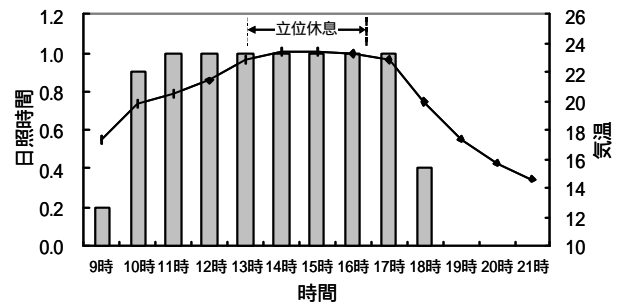


図3 平成13年8月の行動観察時における日照時間および気温の推移 (棒グラフ;日照時間、折れ線;気温)

#### 成果の活用面と留意点

- (1) 軽種馬放牧時の飼料給与設計に活用できる。
- (2) 放牧草の成分含量および消化率は手摘み法による採食部位の値である。
- (3) 割り当て草量と乾物採食量の関係は草高 25 cm以下の条件で成り立つ。

#### 4. 残された問題点とその対応

- (1) 放牧地における栄養摂取量のコントロール